４歳半児健診における質問票及び健診票チェック事項の作成

川井　尚[1)]，庄司　順一[2)]，横井　茂夫[2)]，平山　宗宏[1)]

要　約：乳幼児健康診査のあり方について最近の大きな方向は、一方で高齢化が急速に進むこと、他方合計特殊出生率の低下という大問題のなかで、その目標を子どもの心身の発達や健康の増進に置こうとしている。三歳児健康診査においても平成２年１０月に新たに視聴覚の検査が加わり、精神発達、心理社会的な領域の選定等より総合的な健診を目指し実施されてきている。このような流れの中にあって、三歳児以降の健診が行なわれていないことは、幼児期後半の健康への対応が抜け落ちているといわざるをえない。四歳以降において、心身発達・心理社会的な領域に関してはこれまで発達的に獲得してきたものを統合し、新たな発達段階を迎え、きたるべき就学というより広い社会的生活を送るための準備期といえる。この幼児期後半の準備期をいかに充実して送るかは、児童・思春期の心身の発達や健康にとって重要であり、入学を直前に控えた就学時健診ではその対応は遅いし、難しい。一方、この時期は児童期への移行期ともいえ、育児に新しい困難な問題も親は抱えることになる。また、学校生活をひかえて親の不安・心配も多く生じ、その対応を大きく取り違えれば子どもの心身の健康に多大な影響を与えるのであり、育児援助が必要な時期とも言える。また、精神発達とあいまって大人の神経症に近いかたちの情緒・行動的問題－小児神経症－も発現しやすいこと、更に軽度ないし境界線級の精神発達を示す子や、現在クローズアップされ対応をせまられている学習障害も、学校をはじめとする子どもの社会生活の適応上重要な問題といえ、幼児期後半から適切な援助を開始しなければならない。

そこで、四歳半から五歳に健診時期を想定した四歳半児健診において、以上述べた目標を実現する鍵となるアンケート質問項目を設定することにした。そしてここでは精神発達、心理社会的領域における四歳半健診の四つの目標をたて、これに従って保護者に記入を依頼する質問票及び本領域に関する健診票チェック項目の試案を作成した。

見出し語：四歳半児健診、質問票、精神発達、心理社会的領域、スクリーニング対象、育児援助
健康増進

１）日本総合愛育研究所　２）都立母子保健院

Ⅰ．精神発達・心理社会的領域における四歳半児健診の目標

（1）スクリーニングの対象となる問題

1．軽度の精神発達遅滞及び境界線級

三歳児健診において軽度精神発達遅滞及び境界線級の遅れの子どもを発見し事後指導のルートにのせることを目標としたが、本健診でも引き続きスクリーニングの対象となることが望ましい。その理由は、精神遅滞が軽いほどそれも年令が低い時期ではその発達診断は困難であって、三歳児健診で見逃されている可能性が大きいからである。質問票ではその一次スクリーニング項目として③から⑦の項目を選定した。ただし、この時期でもなお見極めは難しく、健診票に確認項目も用意してあるし、児の生育史や行動観察、また発達検査、知能検査も合わせ経過を追って発達診断を行なうことも必要な場合があろう。

2．学習障害 Learning Disabilities（略　LD）

社会的な生活をしていくうえで必要な技能を習得する能力ー学習ーに問題を持つ子どもをスクリーニングし、幼児期からの適切な養育や専門的なケアをすることによって、就学後の特有の学習の困難さ、二次的な問題ともいえる情緒・行動的問題を少しでも緩和することが必要である。質問票の⑨から⑪はそのためのスクリーニングの手掛かりとする項目である。ただしLDは微細脳機能障害症候群（MBD）から発展した概念であり、その本態は環境因ではないことを除いては不明である。そこで実際のスクリーニングのためには現在のLDについての知見を理解することから健診スタッフははじめざるを得ない。実施にあたっては、そのマニュアルを作成する必要がある。

3．情緒・行動的問題

幼児期後半は精神発達とあいまって、三歳児よりもより多様な形をとった情緒・行動的問題ー小児神経症ーが発現してくる。主な問題は、健診票に記載したので頭のなかに入れておいてほしい。主に質問票⑬から⑲についてチェックし、母親から具体的な問題をきき、同時に児の観察も合わせ確かめてほしい。また、項目⑥⑫にチェックされたり、知的発達には問題が見られないにもかかわらず⑮から⑱のチェックも、情緒・行動的問題との関連を有している。

4．育児援助ー父・母の心身の健康への援助、育児環境の改善・援助ー

今後の母子保健活動の重要なテーマは、育児援助にあることは共通した認識に至ってきている。当然のことながらここでの育児援助とは直接育児を援助しようというよりも、育児がうまくいくようその環境づくりのお手伝をしようということである。そして、育児環境のなかで、第一に重要なことは父・母の心身の健康であり、そのための援助である。項目⑮⑯で不調な場合、その理由を確かめながら、なしうる援助をしたいものである。また、母親就労の増加、孤立した核家族化状況において、母親のみが育児・家事を担うとなればその健康は危うく、家庭機能の低下を招来し、育児環境を悪化させる。そこ

で育児において父親もその役割を果してほしく、
⑰⑱の質問項目は父子関係と父親の家事育児参加への啓蒙も含めて選定した項目である。
健診票では①の生活リズムから⑤の母親との関わりまで、これらの項目を手がかりにして育児環境をチェックし援助の方途を探ってほしい。

文献

①川井　尚、倉橋俊至、萩谷克子：幼児期後半の健診の意義に関する心理学的研究
昭和63年度厚生省心身障害研究「母子保健システムの充実・改善に関する研究」（平山宗宏主任研究者）研究報告書、98-113、1988
②平成２年度幼児健康度調査報告書．平山宗宏、平成２年度幼児健康度調査について、小児保健研究、Vol.50 No.6、691-710、1991

4歳半児健康診査

はがきを利用したアンケートの例

あらかじめ、このアンケートに記入し、健診日に必ずお持ちください。

4歳半児健康診査アンケート

あなたのお子さんについて次の質問に対してどれか当てはまる答えを○で囲んでください。

1．身体の異常や心配なことがありますか。　ない
　　ある…（　　）
2．身体の発育について心配なことがありますか（身長、体重など）。
　　ない
　　ある…（　　）
3．片足ケンケンが１０回以上できますか。　はい　いいえ　わからない

4．ハサミを使って、まっすぐな線にそって切れますか。　はい　いいえ　わからない
5．人、自動車、花、家など不十分でも絵にかきますか。　はい　いいえ　わからない
6．自分の経験したことをお母さんなどにはなしますか。　はい　いいえ　わからない
7．ジャンケンで勝ち負けがわかりますか。　はい　いいえ　わからない
8．うんちのあと、自分でおしりがふけますか。　はい　いいえ　わからない
9．ハサミ、おはしの使い方、お絵描き等を見て手先が不器用だと思いますか。
　　はい　いいえ　何ともいえない
10．発音がはっきりしない等話し方に心配なことがありますか。
　　はい　いいえ　わからない
11．自分勝手な行動やルールが身につかない、注意が集中しない等のために集団場面でうまく行かないといったことがありますか。　はい　いいえ　何ともいえない
12．お友達との遊び、つきあいがうまく行かないことが多いですか。
　　はい　いいえ　何ともいえない
13．目をパチパチする、おねしょ等のくせ、登園したがらない、外でお話しない、等困っていることがあればお書きください。　いいえ　はい
　　（　　）
14．どんな遊びが好きですか。　遊びの例　（　　）
15．お母さんの体や気持ちの状態はよろしいですか。　快調　不調　何ともいえない
16．お父さんの体や気持ちの状態はよろしいですか。　快調　不調　何ともいえない
17・お父さんになついてよく遊びますか。　はい　いいえ
18．お父さんは家事・育児に参加してくれていますか。　はい　いいえ　何ともいえない
19．心配なことがあり、相談したい。　いいえ　はい　（　　）

健診票のチェック事項

身体発育上の問題	＋　±　－	
食事栄養上の問題	＋　±　－	
運動発達上の問題 ①粗大運動 ②微細運動	 ＋　±　－ ＋　±　－	 ・スキップが上手にできる ・お手本をみて＋の形がかける
精神発達上の問題	＋　±　－	・自分の右手、左手が正しくわかる ・役割をもったごっこ遊びができる
言語発達上の問題	＋　±　－	・両親の姓名を正しくいえる ・おはじき等を並べて５つまで正しく数える
視覚上の問題	＋　±　－	
聴覚上の問題	＋　±　－	

育児環境上の問題

１．生活のリズム　［＋　±　－］　（　　）
２．睡眠　［＋　±　－］　（　　）
３．食事　［＋　±　－］　（　　）
４．排泄　［＋　±　－］　（　　）
５．遊び　［＋　±　－］　（遊びの例：　　）
６．集団生活　［＋　±　－］　（　　）
７．入院の経験が　（　ある　・　ない　）　（児の反応：　　）
８．父親の心身状態　［＋　±　－］　（　　）
９．母親の心身状態　［＋　±　－］　（　　）

情緒・行動的問題等のチェック

１．（　　）　食が細い
２．（　　）　肥満傾向
３．（　　）　湿疹
４．（　　）　ゼイゼイしやすい
５．（　　）　便秘
６．（　　）　顔色が悪い
７．（　　）　指しゃぶり
８．（　　）　爪かみ
９．（　　）　マスターベーション
１０．（　　）　チック
１１．（　　）　昼のおもらし（うんち・おしっこ）
１２．（　　）　頻尿
１３．（　　）　夜尿（ほぼ毎晩）
１４．（　　）夜驚
１５．（　　）発音不明瞭
１６．（　　）吃音
１７．（　　）おとなしく、消極的
１８．（　　）乱暴、ルール無視、手におえない
１９．（　　）外で殆んど話しをしない
２０．（　　）人をとても恐がる等恐怖症的傾向
２１．（　　）強迫的傾向（確認癖など）
２２．（　　）登園、登所を嫌がる
２３．（　　）集団不適応（友達と遊べない等）
２４．（　　）学習障害の疑い
２５．（　　）多動的傾向
２６．（　　）自閉的傾向
２７．その他の問題（　　）

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:乳幼児健康診査のあり方について最近の大きな方向は、一方で高齢化が急速に進むこと、他方合計特殊出生率の低下という大問題のなかで、その目標を子どもの心身の発達や健康の増進に置こうとしている。三歳児健康診査においても平成2年10月に新たに視聴覚の検査が加わり、精神発達、心理社会的な領域の選定等より総合的な健診を目指し実施されてきている。このような流れの中にあって、三歳児以降の健診が行なわれていないことは、幼児期後半の健康への対応が抜け落ちているといわざるをえない。四歳以降において、心身発達・心理社会的な領域に関してはこれまで発達的に獲得してきたものを統合し、新たな発達段階を迎え、'きたるべき就学というより広い社会的生活を送るための準備期といえる。この幼児期後半の準備期をいかに充実して送るかは、児童・思春期の心身の発達や健康にとって重要であり、入学を直前に控えた就学時健診ではその対応は遅いし、難しい。一方、この時期は児童期への移行期ともいえ、育児に新しい困難な問題も親は抱えることになる。また、学校生活をひかえて親の不安・心配も多く生じ、その対応を大きく取り違えれば子どもの心身の健康に多大な影響を与えるのであり、育児援助が必要な時期とも言える。また、精神発達とあいまって大人の神経症に近いかたちの情緒・行動的問題一小児神経症一も発現しやすいこと、更に軽度ないし境界線級の精神発達を示す子や、現在クローズアップされ対応をせまられている学習障害も、学校をはじめとする子どもの社会生活の適応上重要な問題といえ、幼児期後半から適切な援助を開始しなければならない。
そこで、四歳半から五歳に健診時期を想定した四歳半児健診において、以上述べた目標を実現する鍵となるアンケート質問項目を設定することにした。そしてここでは精神発達、心理社会的領域における四歳半健診の四つの目標をたて、これに従って保護者に記入を依頼する質問票及び本領域に関する健診票チェック項目の試案を作成した。